

| | | | | | | | | | | | | |
|---|--|--|-----------------|-----------------------------|-----------------------|------|---------|-------|------|------|--------|---|
| 科目名 | 小児看護学特別研究Ⅱ Research ProjectⅡ in pediatric Nursing | | 担当教員 (研究室番号) | 宮崎 つた子 (207) 前田 貴彦 (206) | 教員への連絡方法 (メールアドレス) | | | | | | | |
| 履修年次 | 2年次前期 | 科目区分 | 専門科目 | | 選択区分 | 分野必修 | 単位数(時間) | 4(60) | 授業形態 | 特別研究 | 科目等履修生 | 否 |
| 科目目的 | 立案した研究計画に沿って実際に調査を行い、研究者として必要な基礎的な研究遂行能力を修得する。調査を実施する前には、倫理的側面についても十分に検討し、研究倫理審査を受審することによって研究者としての倫理観を醸成する。 | | | | | | | | | | | |
| ディプロマ・ポリシー(DP) | 主要なDP | 5. 看護学の発展に寄与するための研究能力を修得している。 | | | | | | | | | | |
| | 関連するDP | 3. 地域の特性や変化する社会のニーズを的確に捉え、看護学教育および実践看護学に関する課題を追及していける研究能力を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究計画を遂行するにあたり、適切な方法を検討し、必要なデータを収集することができる。 2. 必要に応じて研究フィールドの調整を行うことができる。 3. 研究計画の実施に伴う倫理的配慮を検討し、研究倫理審査を受審することができる。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(基準) | プレゼンテーション(50%)、倫理審査申請に関する書類(40%)、取組み状況(10%) | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 特に指定しない。 | | | | | | | | | | | |
| 参考書等 | 必要時に提示する。 | | | | | | | | | | | |
| 受講者へのメッセージ | 研究依頼やデータ収集では、自ら考え自主的に行動して下さい。そして、これらの過程を通して、研究者として必要な姿勢についても考えて下さい。 | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 調査を実施する前に本学の研究倫理審査を受審し、「適」の判定を得ていること。 | | | | | | | | | | | |
| 学 習 内 容 | | | | | | | | | | | | |
| <p>【到達目標1について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画に沿って最適な方法で、必要なデータを収集する。また、研究方法に応じた留意事項や手法の修得を目指す。 <p>【到達目標2について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究方法に応じて、施設や対象者への依頼方法を検討し、依頼の際は大学院生自ら主体的に行う。 <p>【到達目標3について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の大学院生や指導教員等への研究計画のプレゼンテーションを通して、研究目的や方法に則した倫理的配慮を検討し、適宜修正を行う。 ・検討した倫理的配慮について、本学倫理審査会および必要時、研究協力施設の倫理審査委員会等に申請を行う。 ・本学の倫理審査会および研究協力施設の倫理審査委員会等からの指摘事項に対し、倫理審査申請書を修正し、「承認」が得られるまで再提出する。 | | | | | | | | | | | | |